

試験研究活動情勢報告（平成30年8月分）

【果樹試験場】

施設カンキツにおける IoT 活用技術の開発へ向けて



層別に光の透過程度を測定している様子



果実に取り付けたデンドロメーター

ハウスミカンでは収穫が終わり、次年度へ向けてせん定を行いました。せん定は次作の成否に直結する大事な作業ですが、その出来を数値化することはされていませんでした。せん定の程度を把握するため、せん定前後の樹体における光の透過程度を測定して、数値化を試みました。今後、継続してデータ収集を行う予定です。

また、施設‘水晶文旦’ではデンドロメーターを用いて果実肥大の日変化を測定し、樹体へのストレス程度を把握できるか検討しています。今後、データ収集を重ね、土壌の乾燥程度を示す土壌水分センサーの値との関係を解析していく予定です。

熱帯果樹における挿し木増殖技術の開発



発根促進のためのミスト処理

マンゴーやアボカドは一般的に接ぎ木で増殖されています。しかし、1果に1個しか種が得られず日本では台木の大量確保が困難です。そこで、これらの品目の大量増殖のために挿し木による増殖技術を検討しています。現在のところ、暗黒処理した緑枝を鹿沼土に挿してミスト下で管理することで発根が確認できています。しかし、発根率が低いため、今後も効率的な発根促進方法について検討していきます。

ハウス水晶文旦、土佐文旦現地検討会など開催支援



水晶文旦検討会（安芸市）、土佐文旦講習会（土佐市）

8月28日、約30人が参加してJA土佐あき管内で果樹研究協議会主催の生産現地検討会が開かれました。果樹試験場からは水晶文旦の10月収穫作型における生態や酸戻りについて情報提供を行いました。

8月31日、約80人が参加してJAとさし土佐文旦部会の総会・講習会が開かれました。果樹試験場からは土佐文旦の人工受粉省力化及び種なし化技術の研究成果について情報提供を行いました。